



大瀬戸 宏樹 議員

Q 公共施設の現状と対策は

A 町長

維持管理の適正化に努めている。

【Q1】
老朽化した公共施設の現状と、今後どのように管理し健全に使い続けるのかを問う。

【A1】
公共施設等総合管理計画を見直し、新設や廃止等による施設保有量を改め、実効性の高い計画とした。施設管理の健全化に努める。

【Q2】
学校施設長寿命化計画が策定されたが現状は。

【A2】
学校施設の大規模改修や改築に順次着手しているが、計画通りでないものもある。教育ニーズの変化によるものもあり、適正規模等再検討をしており、コストの平準化も考慮し今後改修を実施していく。

【Q3】
町営住宅についてはどうか。

【A3】
木造平屋住宅は耐震性能を満たしておらず、随時解体し、中溝の重地住宅等に集約したい。

【Q4】
財政的に厳しいがどう対応するのか。

【A4】
今後も維持更新費用は増加するが、有利な財源を確保しながら慎重に対応する。

【Q5】
次世代のために、今後の計画には長寿命の施設を念頭にすべきだが。

【A5】
計画段階から長寿命の面で、また財政的にも検討していく。



福垣内 邦治 議員

Q 特殊詐欺等対策に取り組んでいるか

A 住民生活部長

地域のサロンや老人会などで出前講座を実施し、注意喚起をしている。

【Q1】
出前講座の効果は把握できているか。

【A1】
参加者が、お友達との会話で注意喚起するいわゆる「口こみ」が効果発揮していると考えている。

【Q2】
インターネットでのリフォーム補助金詐欺の問題も聞か、把握しているか。

【A2】
現在、本町では「外壁塗装」「家屋解体」に対する補助金の制度はない。住宅関連では「子育て世代住むなら熊野定住応援助成金」、「熊野町ブロック塀等安全確保事業」などがある。

【Q3】
これまでに受けている相談内容は。

【A3】
通販トラブル、光回線の契約解除などある。

【Q4】
高齢者からの相談対応は。

【A4】
相談者からの相談内容を聴取し、最適なアドバイスをするようにしている。また、生活面での支援が必要な場合には、高齢者支援課と連携している。

【Q5】
こまやかな情報提供を町においては行っていただきたいが。

【A5】
生活環境課に月曜日と水曜日には消費生活相談員を配置している。補助金などに関する相談も受けている。

Q 地方分権、行政改革への取組状況は

A 町長

概ね適正で進捗している。目標値達成に向けて着実に推進する。

【Q1】
地方分権推進法から28年、行政改革大綱から23年が経過した。熊野町の行政改革への取組状況は。

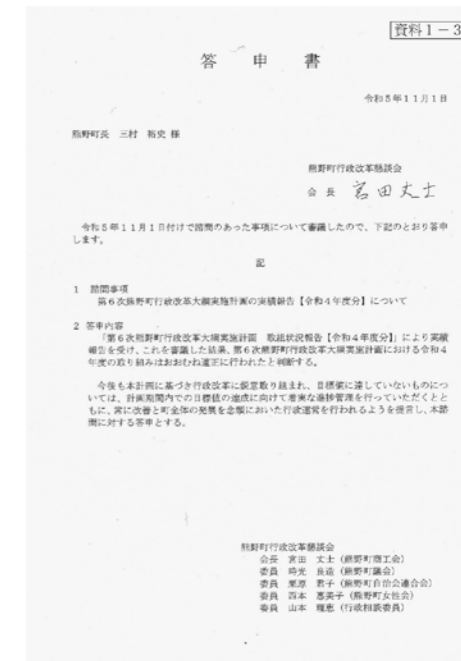
【A1】
概ね適正で進捗している。未達事項は着実に管理し推進する。

【Q2】
改革を進め公共の福祉増進には、職員の主体的取組みが必須である。県内最低の給与水準を改善する考えは。

【A2】
年間総人件費は約10億円で、7～800万円アップで県内平均となる。
今は、町民の理解が得られにくい状況であるためそれを議論する時期ではないと考えている。



荒瀬 穂積 議員



▲答申書

Q これまで約60億円投資の筆の里工房の今後は

A 町長

筆の町ならではの特色あるミュージアムとして、適切な施設運営に努める。

【Q1】
筆の里工房には、これまで約60億円を投資し年間維持費約1.5億円が必要である。事業規模はどの程度か。また、外部監査を求める。

【A1】
計画案では13億6,000万円となっている。
監査は、財団の監事が適正に行っている。今後も理事や評議員、町監査委員などの意見などを踏まえた適法で円滑な運営が持続されるよう指導・監督に当たる。

【Q2】
「町民のための場所」にするとのこと。町民にCG等を活用して丁寧な説明が必要では。

【A2】
CGの作成について業者に打診し、調整している。



▲筆の里工房周辺整備事業予定地